《研究報告》

# がんの子どもを主人公とした絵本の道徳教育への活用可能性の検討

大見 サキエ[1)]，森口 清美[2)]，畑中 めぐみ[3)]，高木 歩実[4)]，河合 洋子[5)]，
宮城 島恭子[6)]，安田 和夫[7)]，平賀 健太郎[8)]，高橋 由美子[9)]，堀部 敬三[3)]

1）椙山女学園大学看護学部，2）就実大学教育学部，3）名古屋医療センター，
4）岐阜聖徳学園大学看護学部，5）日本福祉大学看護学部，6）浜松医科大学医学部看護学科，
7）岐阜聖徳学園大学教育学部，8）大阪教育大学教育学部，9）元岐阜聖徳学園大学看護学部

## 要　旨

本研究の目的は，がんの子どもを主人公とした絵本が道徳教育に活用できるかについて検討することである．方法は，小学５年生の道徳科目で絵本を活用して授業を行った．授業のねらいは，相手の立場にたって思いやり等の態度を育てるであった．分析は，授業後に児童が書いた感想文59部を質的帰納的に行った．その結果，児童は主人公の立場として，入院や病気になった時の驚き・寂しさ・悲しさ・不安，早く退院したい気持ち，復学に関する様々な不安，復学時にクラスメートが受け入れてくれて嬉しい気持ち等を捉えていた．これらから，児童は主人公の気持ちを想像できていることがわかった．また，復学時は主人公の闘病姿勢に敬意を持つとともに，クラスでは思いやりをもって主人公を見守り，支えたいという気持ちになっていた．さらに生命の大切さ，将来の自分の生き方についても学んでいた．

この結果から，この授業は道徳のねらいに沿ったものであり，そして，絵本は道徳の教材として活用できることが示唆された．

キーワード：小児がん，絵本，道徳教育，小学生，いじめ予防

## Ⅰ．諸言

近年，小児がんの生存率は著しく向上し，ほとんどの子どもが長期入院を経て復学することが可能となった．文部科学省の教育の充実に関わる通知をうけ，がん拠点病院をはじめとする医療機関での教育体制は徐々に整備されつつあるが，地元校に円滑に復学するための受け入れる側の体制は十分とは言えない．復学支援を困難にしている教員側の要因として，教員が小児がんの知識が乏しく，対応に対する経験が不足している，学校内での情報共有と支援体制の整備不足，保護者や病院との連携不足，学校間の連携不足，周囲の児童への説明を十分行っていないこと等がある（大見ら，2016）．

学校側の受け入れ体制の整備や教員の理解が進まない現状では，学校の周囲の児童や保護者，教員の患児に対する理解を促進することが取り組むべき喫緊の課題と考える．そこで筆者らは，がんの子どもの理解を促進するために復学支援ツールとして，白血病の小学２年生を主人公とした絵本「おかえり！，めいちゃん」を作成した．この絵本は，主人公がある日突然発病し，長期入院を経て退院，復学するというストーリーである．これを活用して小学校３年生の児童を対象に読み聞かせを実施したところ，絵本によってがんに対する興味・関心が沸き，がんの子どもの

理解を促進することが明らかになった(大見ら, 2016). そういう中, 文部科学省は2014年度から「がんの教育総合支援事業」を開始し，全国のモデル校でがん教育を実施し，がん教育の教材や外部講師に関するガイドラインを作成し，がん教育を推進してきた（文部科学省，2016）．2020年度からは本格的に「子どもへのがん教育」が開始され，その教材についてはこれまで検討されてきているが，林（2017）はがん教育の実施については，学校教育のどの時間に，だれが，何を，どのように教えるべきか，小学校・中学校・高等学校の各発達段階にどう対応するのかなど，地域や学校に応じた議論が不可欠であると指摘している．令和２年度がん教育研修会・シンポジウム（文部科学省，2021）では，がん教育の方法の一つに道徳教育で実施することを推奨している．

一方，文部科学省は，いじめ問題の対応等を受け，道徳教育の充実を掲げ，平成27年３月に学校教育法施行規則を改正し，「考える道徳」「議論する道徳」への転換を図るべく，検討を重ねてきた．さらに平成29年３月31日に，小学校学習指導要領を全面改訂し，「特別の教科　道徳（以下　道徳科）」として，新たに位置づけ，その目標や内容，教材や評価，指導体制のあり方等を見直し，教育課程の改善を図った．道徳教育の目標を「道徳的諸価値についての理解を基に，自己をみつめ，物事を多面的・多角的に考え，自己の生き方について考えを深める学習」と改め，平成30年度から全面実施に踏み切った（文部科学省，2017）．

がんの子どもが復学時最も不安なことは，いじめやからかいの問題であり，復学した児童が脱毛による容姿の変化からいじめの対象となり不登校に至らしめることも稀ではない（阪本ら,2003）．いじめの本質について田中（2017）は，「遠因としての不安・不満等の負の感情を有した子どもたちは『違いは間違いではない』にもかかわらず，他者と自分たちとの微妙なズレや違い,『以て非なるもの』状態を許容することができずにいじめを開始してしまう」と述べており，容姿の違いがいじめを誘発すると考えられる．闘病してきた子どもの立場を理解することは，この微妙なズレを許容し，いじめを予防し，思いやりの心を醸成することにつながるのではないかと考える．従ってこの絵本は道徳教育の教材に十分なり得ると考える．

そこで道徳教育の指導の観点４つの内の一つである「主として人との関わりに関する事」に着目した授業展開について，この絵本が教材として活用可能かどうかを検討することにした．小学校の場合，小学１・２年生，小学３・４年生，小学５・６年生に区分され，それぞれの指導観点が示されているが，今回は５・６年生の指導の特に第７「誰に対しても思いやりの心をもち，相手の立場に立って親切にすること」の観点について検討する（文部科学省.2010）．この時期は自己中心性から脱却し，徐々に思いやりが育ってくる時期である．コールバークの道徳性の発達段階の特徴を考慮すると小学5年生はコールバークの述べる水準Ⅱの段階３と段階４に位置しており（山内，2000），利他的行動が伸びてくる時期と一致している．

したがって今回小学５年生を対象とすることでより，道徳性の発達という視点からその効果を確認できると思われる．この絵本の活用可能性が明らかとなれば，小児がんの理解に寄与するのみならず，いじめ問題の対応，命の大切さや他者への思いやりを学習できる機会になると考える．本研究はがん教育および道徳教育の推進という課題の検討資料を提供すると考える．

## Ⅱ．目的

絵本が道徳教育の教材として活用可能かどうかを検討する．本研究では，絵本の初版本を修正した改訂版（大見ら，2016）を活用する．

## Ⅲ．研究方法

1．**対象**：便宜的に抽出選択したA小学校の小学5年生2クラス60名程度とする．

2．**調査期間**：2018年9月～2019年3月

3．**絵本の概要**

1）絵本のタイトルと体裁：「おかえり，めいちゃん - 白血病とたかかった子どもが学校にもどるまで-」A４判32ページカラー刷り．

2）絵本のねらいは入院，復学時の主人公の気持ちを理解促進することであり，その意図について「読んで聞かせる人へのメッセージ」として文書を挿入した．この文書には，全体のあらすじと主に8つの場面について説明している．具体的には，①突然の発病（体の不調を感じる），②病院での辛い検査と確定診断時の大きな不安，③入院初日の不安な夜，④看護師の励まし，⑤辛い療養生活と脱毛時の衝撃，⑥同じ境遇の子どもとの交流と地元校の先生の面会　⑦待ちに待った退院の知らせ，⑧復学初日のクラスメートの温かい歓迎の場面である．また，予想される児童の質問への回答例の文書も挿入している．

4．**授業概要**

AクラスとBクラスの担当教員のそれぞれの授業案に沿って絵本を教材として，45分間の道徳授業を展開した．授業案の狙いは,「相手の立場にたって思いやりや親切な心や態度を育てる」である．授業案の流れは，概ね以下の内容である．①白血病という病気について説明する．②随時，絵本を読みながら発問，意見交換する．③主人公の気持ちを考える（いくつかの場面を選択）．④主人公にどのように接したいかを考える．⑤感想をまとめるである．なお,絵本は一人1冊ずつ配布した．

5．**データ収集方法及び分析方法**

1）データは授業後，A4様式1枚に「感想」として記述したもののうち，児童からの同意が得られたものとした．各担任が回収したものを匿名化した後，クラス毎にデータ入力した．Aクラスは，感想を自由に記載してもらっていた内容であるが，一方，Bクラスの感想への記入は①めいちゃんの入院中の気持ち，②復学時のめいちゃんの気持ち，③絵本を読んで学んだこと，感想と指定して感想を求めている．従って授業展開が多少異なるため別々に分析整理した．記述内容の類似性,相違性に従い,カテゴライズし,質的帰納的に分析した．これらは研究者間で検討し,信頼性･妥当性の確保に努めた．

## Ⅳ.倫理的配慮

所属大学倫理審査委員会の承認を受けた後，実施した（岐聖2018-13）．道徳教育に力を入れているA小学校の学校長に打診し，了解が得られたため，あらためて倫理的配慮について記述した書面と口頭で学校長，担任へ説明し，書面にて同意を得た．学校側には事前に絵本を配布・説明し，内容の理解を促した．クラス担任には，絵本を使った道徳教育の授業案の作成を依頼し，授業後の感想文を研究データとすることの同意を得た．授業案については，自由に作成していただき，学校側に一任した．児童・保護者については年齢に応じた説明文を作成し提出したところ，学校から説明するとのことで説明を学校側に一任し，同意を得た．２クラスの道徳の時間は同意の上研究者２名が授業参観した．クラス内にがんの家族や直近で入院経験のある児童がいないことを確認し，実施した．さらに授業中，授業後気分不良や精神的に不安定になった児童の有無を確認したが，児童の体調や精神面の不調の報告はなかった．

## Ⅴ.結果

感想文の回収は２クラス（30名と29名）59部であり，記述された内容を整理，分析した．なお，記述された内容のテーマを＜　＞，カテゴリーを【　】で示す．

### １．Aクラスの結果

このクラスに記載されていた30名の感想の内容は，①＜入院中の主人公の気持ち＞，②＜自分が主人公だったら＞，③＜復学した主人公にどのように接したいか＞，④＜学んだこと＞の４つのテーマについて記述されていた．まず，①＜入院中の主人公の気持ち＞（表１）では，８つにカテゴリー化され，【入院になってとても驚いた】【急な入院で一人は不安で怖く，寂しかった】【長期に学校に行けず寂しい】【病気になって怖くて，悲しくて辛い】など入院や病気になったことに対する気持ちや【学校に行けるか不安だ】【学校のみんなに会えなくて悲しくて辛い】という学校に対する不安な気持ちがある一方で，【先生の面会やみんなの手紙が嬉しかった】【友だちや看護師の応援でめげずに頑張れた】など周囲の支えに対する気持ちが整理された．②＜自分が主人公だったら＞（表２）では，３つにカテゴリー化され，【痛くても，寂しくても，勇気をもって治療を頑張りたい】【治療に耐えられないから，諦めてしまう】【寂しくて，怖くて我儘をいう】と治療を頑張りたい気持ちと頑張れないという気持ちの両方の気持ちが整理された．次に③＜復学した主人公にどのように接したいか＞（表３）では，11にカテゴリー化され，【退院のお祝いの気持ちを伝える】【クラスで協力して助け合う】【仲良しになって一緒に楽しく遊びたい】【からかわない】【からかわれないように皆で守る】【励ます】【大丈夫と声をかける】【勉強などでできることを助けたい】【優しく接したい】【親切にする】【相談に乗る】など復学者を守り，クラス全体で支援したい気持ちが整理された．④＜学んだこと＞（表４）では，11にカテゴリー化された．【白血病は治る病気だ】【白血病は7か月ほどで退院できる】【白血病は突然なる病気だ】【病気は怖くて大変だ】【治療は苦痛でかわいそうだ】等白血病という病気の発病時期，治療期間，苦痛の程度，予後や闘病の大変さなどが整理され，【入院のことがよくわかった】【治療をあきらめずに頑張っていてすごい】【皆が主人公に会えて嬉しい】【仲良しだったから皆が優しくできた】【仲間の大切さがわかった】等入院の事や主人公の頑張り，仲間の大切さが整理された．

表１　入院中の主人公の気持ち（Ａクラス）

| カテゴリー | サブカテゴリー |
|---|---|
| 入院になってとても驚いた | みんな以上にめいちゃんはびっくりした |
| 入院環境に慣れずに，怖くて寂しい | 夜一人で入院していることが怖い |
| | 怖いし，寂しい，不安 |
| 長い入院生活は寂しくて不安だ | 急な入院で怖くて不安で寂しかった |
| | ６か月学校に行けなくて寂しい |
| 病気になって怖くて，悲しくて，つらい | 薬や入院は怖くて，嫌だったと思う |
| | 白血病になって悲しかった |
| | 長い間辛い思いをした |
| 学校のみんなに会えなくて悲しくて，つらい | みんなに会えなくてとても悲しくて辛い |
| | 学校を思い出すと胸が痛んだ |
| 学校に行けるか不安だ | 学校にいつ行けるか不安だった |
| | 学校に行けないことを不安に思っていた |
| みんなの手紙に励まされ，うれしくて，頑張れた | みんなの手紙がうれしくて頑張れた |
| | 先生の面会と手紙がうれしかった |
| 応援があったので頑張れた | 看護師さんが助けてくれたので努力できた |
| | 友達が心配しているからめげないで頑張れた |

表２　自分が主人公だったら（A クラス）

| カテゴリー | サブカテゴリー |
|---|---|
| 痛くても，寂しくても，勇気をもって治療を頑張りたい | 薬を飲みたくなくても頑張りたい |
| | 勇気をもって闘う |
| | 注射されても，寂しくても我慢して頑張りたい |
| 治療に耐えられないから，諦めてしまう | 治療は痛いからやりたくない |
| | 自分だとあきらめてしまう |
| | 病気になったらとても耐えられない |
| 寂しくて，怖くて我儘を言う | 寂しくて怖くて心配になる |
| | 早く帰りたいとわがままを言うかもしれない |

表３　復学した主人公にどのように接したいか（A クラス）

| カテゴリー | サブカテゴリー |
|---|---|
| 退院のお祝いの気持ちを伝える | 退院したことへの祝福を伝える |
| | 退院したことを褒めていたのが良かった |
| クラスで協力して助け合う | みんなで協力して助け合う |
| | 助け合えるクラスメートになりたい |
| 仲良くなって一緒に楽しく遊びたい | 仲の良い友達になる |
| | 楽しく一緒に遊べるようにする |
| | 笑わせてあげたい |
| からかわない | からかわない，悪口をいわない |
| | 変わったことを笑わない |
| からかわれないように皆で守る | からかう人がいたら注意する |
| | いじめられないようにみんなで守る |
| 励ます | 励ます |
| | これからも頑張ってと伝える |
| 大丈夫と声をかける | 辛い思いをしている時には声をかける |
| | 大丈夫と声をかける |
| 勉強などできることで助けたい | 勉強などわからないことを助ける |
| | 自分たちができることを助けてあげたい |
| 優しく接したい | 寂しい思いをさせないように本当のやさしさで接する |
| | つらい思い出を忘れさせてあげたい |
| 親切にする | 親切にする |
| 相談に乗る | 相談に乗る |

表４　学んだこと（A クラス）

| カテゴリー | サブカテゴリー |
|---|---|
| 治療をあきらめずに頑張っていてすごい | 夜一人で怖いのを耐えてすごい |
| | 頑張って手術してすごい |
| | ７か月も頑張ってすごい |
| | 治療をあきらめずにやってすごい |
| | 辛いことを乗り越えてすごい |
| 白血病は突然なる病気だ | 白血病はいきなりなる |
| 白血病は７か月ほどで退院できる | 白血病は６～７か月で退院することになる |
| 白血病は治る病気だ | 積極的に治療したから病気は治った |
| 病気は辛くて怖くて大変だ | 病気は怖いと思った |
| | 白血病は辛くて大変だと思った |
| 治療は苦痛でかわいそうだ | 治療はとても痛い |
| | 白血病と闘ってかわいそうだ |
| 入院のことがよく分かった | 入院のことがよく分かった |
| 皆が主人公に会えてうれしい | みんなもめいちゃんにあえてうれしい |
| 仲良しだったから皆優しくできた | めいちゃんとクラスの子がもともと仲が良かったから退院しても仲良く接しられたと思う |
| 仲間の大切さがわかった | 仲間と協力することが大切だ |
| | 仲間は大切だということがわかった |

## 2．Bクラスの結果

このクラスの29名の感想では，①＜入院中の主人公の気持ち＞，②＜主人公をどんな子どもだと思うか＞，③＜復学した時の主人公の気持ち＞，④＜復学した主人公にどのように接したいか＞，⑤＜自分はどんな子になりたいか＞，⑥＜学んだこと＞の６つのテーマについて記述されていた．①＜入院中の主人公の気持ち＞（表５）では，11にカテゴリー化され，【この状態は嫌だ】【早く治って退院したい】等入院・治療中の生活についての気持ち，【早く学校に行って，友だちと遊びたい】【自分のことを覚えてくれているか，忘れられたら寂しい】【自分のことを心配してくれているか】等の学校や友達関係についての気持ち，【以前と同様に皆と学校生活ができるか心配だ】【友だちができるか，遊んでくれるか心配だ】【からかわれていじめられないか不安だ】【詮索されるのがつらい】【髪の毛が生えるのか不安だ】等退院後の学校や友達との関係，外見の変化に対する気持ちと【その他】に「もう死にたい」「自分だけなぜ，学校に行けないんだろう」などの気持ちも記載されていた．②＜主人公をどんな子どもだと思うか＞（表６）では，8つにカテゴリー化され,【病気でも逃げないで頑張る強い子だ】【諦めないで頑張れるすごい子だ】【病気と闘っていてすごい子】【治療や嫌なことから逃げない子】【病院でも友だちを作れる子だ】【髪が抜けても前向きな子だ】【どんな状況でも明るい子だ】【明るい人でも不安になることがある】等主人公の前向きで頑張る姿に敬意を払う気持ちとどんな子どもでも不安になる側面があるということを示していた．③＜復学した時の主人公の気持ち＞（表７）では,10にカテゴリー化され,【皆が受け入れてくれたことが嬉しい】【皆が待っていてくれて嬉しい】【覚えていてくれて嬉しい】【皆の笑顔をみて嬉しい】【皆に再会できて嬉しい】【心配してくれていたことが嬉しい】等クラスメートの受け入れに対する嬉しい気持ちと【いじめやからからかいがなくて安心した】と復帰しての安心感,【学校に行けて嬉しい，楽しい】【皆と同じように過ごせて嬉しい】等学校生活に復帰した嬉しさ，そして【治そうと頑張った甲斐があった】という達成感を感じていた．④＜復学した主人公にどのように接したいか＞（表８）では，６つにカテゴリー化され,【クラスで温かく迎えたい】【やさしくしてあげたい】【皆で支えてあげたい】【心を治せるように心配し温かく見守りたい】【頑張ったことを褒めたい】【同じ人間だからからかったり，差別をしない】といずれもクラスで温かく受け入れ，見守る対応が記載されていた．⑤＜自分はどんな子になりたいか＞（表9）では，７つにカテゴリー化され,【諦めない子になりたい】【強い子になりたい】【逃げない子になりたい】【優しい子になりたい】【皆のことを思い出して頑張りたい】【嫌なことがあっても勇気をもって乗り越えていきたい】と前向きな姿勢が見いだされた．⑥＜学んだこと＞（表10）では，10にカテゴリー化され,【不安を取り除き，安心してもらうことが大切だ】【手紙を書くことが大切だ】【笑顔で迎えることが大切だ】【支えあうことが大切だ】【いじめのない世界を作る必要がある】【諦めないことが大切だ】【我慢することが大切だ】【命は大切だ】【病気になった時の気持ちがわかった】【白血病は闘える病気だ】等の気持ちに整理された．

表５　入院中の主人公の気持ち（B クラス）

| カテゴリー | サブカテゴリー |
|---|---|
| この状態は嫌だ | ずっと入院しているのは嫌だ |
| | 友達に会えないで死ぬのは嫌だ |
| | 脱毛したままでは学校に行きたくない |
| 早く治って、退院したい | 早く病気が治ってほしい |
| | いつ退院できるかな |
| | 早く退院したい |
| | 元の生活に戻りたい |
| 早く学校に行って、友達と遊びたい | 学校に早くいきたい |
| | 学校に早く行って遊びたい |
| | 友達に会って、話したい |
| 自分のことを覚えていてくれるか、忘れられたら寂しい | 自分を覚えてくれているかなと心配 |
| | 仲良し友達が忘れないでいてくれるか |
| | 自分のことが分からなくなったら寂しい |
| 自分のことを心配してくれているか | 私の事を心配してくれているかな |
| | みんな心配してくれているかな |
| 以前と同様に皆と学校生活ができるか心配だ | 前と同じように皆と学校生活ができるか |
| 友達ができるか、遊んでくれるか心配だ | 仲間外れにされるのではと心配だ |
| | 帰ったら遊んでくれるかな |
| | 友達ができるか、できなかったら嫌だな |
| からかわれていじめられないか不安だ | 髪の事をからかわれないか不安 |
| | いじめられないか不安 |
| 髪の毛が生えるのか不安だ | 本当に髪の毛は生えるのかな |
| | 生えてこなくなったらどうしよう |
| 詮索されるのがつらい | いろいろ聞かれるのは嫌だな、つらい |
| | みんな、何と思っているのかな |
| その他 | もう死にたい… |
| | 自分だけなぜ、学校にいけないんだろう |
| | 地元の学校の方がいいな |

表６　主人公はどんな子どもだと思うか

| カテゴリー | サブカテゴリー |
|---|---|
| 病気でも逃げないで頑張る強い子だ | お母さんと離れても頑張って強い子だ |
| | 嫌いことや嫌なことから逃げないで頑張っている強い子だ |
| 諦めないで頑張れるすごい子だ | あきらめずに頑張るめいちゃんはすごい |
| | 病気になってもあきらめずに頑張った強い子 |
| | あきらめずに我慢していたから、すごいと思った |
| 病気と闘っていてすごい子だ | 治療をがんばっていたので、すごい |
| | 励まされて頑張ろうという気持ちになったことがすごい |
| | 病気と闘って偉い |
| 治療や嫌なことから逃げない子だ | 治療は大変なのに逃げずにすごい |
| | 嫌なことから逃げないめいちゃんはすごい |
| | 逃げ出さないめいちゃんはすごい（偉い） |
| 病院でも友達を作れる子だ | 病院でも友達を作っためいちゃんはすごい |
| 髪が抜けても前向きな子だ | 髪の毛がなくなっても前向きに考えていてすごい |
| | 髪がぬけても学校に行こうとするめいちゃんはすごい |
| どんな状況でも明るい子だ | （そういう状況でも）めいちゃんは明るい |
| 明るい人でも不安になることがある | 明るいめいちゃんでも不安になっていた |

表７　復学時の主人公の気持ち（Ｂクラス）

| カテゴリー | サブカテゴリー |
|---|---|
| 皆が受け入れてくれたことが嬉しい | 温かく迎えてくれてうれしい |
| | 皆が歓迎してくれてうれしい |
| 皆が待っていてくれて嬉しい | 皆が待っていてくれてうれしい |
| | 不安だったけど教室で待ってくれた |
| いじめやからかいがなくて安心した | いじめやからかいがなくて安心した |
| | 髪の毛について言われなくて安心した |
| 覚えていてくれて嬉しい | 覚えてくれていてうれしい |
| | みんながちゃんと覚えてくれてうれしい |
| 学校に行けて嬉しい，楽しい | 学校に行けてうれしい |
| | やっぱり学校は楽しいな |
| 皆の笑顔を見て嬉しい | みんなが喜んでくれて嬉しい |
| | みんなの笑顔をみてうれしい |
| 皆と同じように過ごせて嬉しい | みんなとおなじようにすごせてうれしい |
| | みんなとまた遊べるからうれしい |
| 皆に再会できて嬉しい | みんなにまた会えてうれしい |
| | 長い入院生活だったから，あえてうれしい |
| 心配してくれていたことが嬉しい | 泣いている子を見て心配してくれていたんだな |
| | 皆が心配してくれてうれしい |
| 治そうと頑張った甲斐があった | 病院で頑張ったかいがあった |
| | 一生懸命治そうとしたから治った |

表８　復学した主人公にどのように接したいか（Ｂクラス）

| カテゴリー | サブカテゴリー |
|---|---|
| クラスで温かく迎えたい | 温かく迎えたい |
| | クラスで温かく迎えてあげたい |
| やさしくしてあげたい | 学校を休んだ人をやさしく受け止めたい |
| | 髪の毛のない人には優しくしないといけない |
| | 病気になっている子にはやさしく声をかけたい |
| | 病気で不安でいっぱいだからやさしくしてあげたい |
| 皆で支えてあげたい | 苦しい人がいたら，皆で支えてあげたい |
| | みんなで力になってあげたい |
| 心を治せるように心配し温かく見守りたい | こころを治せるように温かく見守りたい |
| | 心配してあげたい |
| 頑張ったことをほめたい | 「よく頑張ったね」とほめたい |
| 同じ人間だからからかったり，差別をしない | がんになっても同じ人間だから差別はしない |
| | からかわない |

表９　自分はどんな子になりたいか（Ｂクラス）

| カテゴリー | サブカテゴリー |
|---|---|
| 諦めない子になりたい | あきらめずにやりたい |
| | あきらめないでがんばりたい |
| 強い子になりたい | 強い子になりたい |
| 逃げない子になりたい | 嫌なことでも逃げない |
| 優しい子になりたい | 優しい子になりたい |
| 皆のことを思い出し頑張りたい | 辛いことがあっても努力したい |
| | 皆のことを思い出し頑張りたい |
| 嫌なことがあっても勇気をもって乗り越えていきたい | 勇気を出してチャレンジしたい |
| | 嫌なことがあっても乗り越えていきたい |

表10　学んだこと（Bクラス）

| カテゴリー | サブカテゴリー |
|---|---|
| 不安を取り除き、安心してもらうことが大切だ | 手紙を書いて安心してもらうことが大切 |
| | 優しくすることで不安がとれる |
| 手紙を書くことが大切だ | 手紙で心配していることを伝えるのが大切 |
| | 手紙で病気に立ち向かうことができた |
| 笑顔で迎えることが大切だ | 笑顔で迎えることが大切 |
| 支えあうことが大切だ | 皆で支えあうことが大切 |
| いじめのない世界を作る必要がある | 不安がないようにいじめのない世界を作る必要がある |
| 諦めないことが大切だ | あきらめないことが大切だ |
| | 最後まで乗り切るとよいことがある |
| 我慢することが大切だ | 我慢することも大事だ |
| 命は大切だ | 命の大切さを学んだ |
| 病気になった時の気持ちがわかった | 病気は怖いと思った |
| | 白血病のつらさ・こわさ・屈辱が分かった |
| 白血病は闘える病気だ | 白血病は闘える病気だと分かった |

## Ⅵ．考察

### 1．主人公の気持ちの理解

1）**入院中の気持ちについて**，Aクラスでは主人公の突然の発病時の気持ちや入院に対する驚きや怖さ，寂しさ，悲しさ，不安など複雑な気持ちを想像し，Bクラスでは入院して友だちにも会えず，脱毛した【この状態は嫌だ】と感じ，【早く治って退院したい】等入院・治療への否定的感情や退院を切望する気持ちを想像していた．また【学校の皆に会えなくて悲しくて辛い】【忘れられたら寂しい】【からかわれて，いじめられないか不安だ】等皆に会いたい気持ちや友達関係が途切れてしまわないか，いじめられないか懸念する気持ちと同時に【以前と同様に皆と学校生活ができるか心配だ】等学校復帰を不安視する気持が想像できていた．また【髪の毛が生えるか不安だ】など治療後の容姿が気になることも捉えていた．一方，Aクラスで【友だちや看護師の応援でめげずに頑張れた】など皆の励ましが治療を頑張る力になることを理解していた．さらに自分が主人公の立場だったらと考えたAクラスでは，【痛くても，寂しくても，勇気をもって治療を頑張りたい】【治療に耐えられないから，諦めてしまう】【寂しくて，怖くて我儘をいう】と治療を頑張りたい気持ちと頑張れないという両方の気持が挙げられていた．また闘病について「達成感を感じている」児童もある一方で,【その他】に「もう死にたい」と絶望する気持ちやなぜ，自分にこういう事態が起きるのかなど根源的な問いをした軽視できない記述もあった．道徳教育のねらいには，ディスカッションして多様な考え方を知り，自分の考えを整理するという観点があるが，前述の様々な意見は主人公を通して病気になった時の病気に対する自分の向かい方，生き方についてクラスで考える重要な材料を提供していると考える.「死ぬこと」について命の大切さを含めて慎重に議論を進めていく必要がある.

2）**復学時の気持ちについて**，【皆が受け入れてくれたことが嬉しい】等クラスメートが自分を忘れないで心配してくれ，受け入れたことに対する嬉しい気持ちと【いじめやからからかいがなくて安心した】と復帰しての安堵感や学校で【皆と同じように過ごせて嬉しい】等学校生活に復帰して皆と過ごせる嬉しさを感じていた．退院してもクラスメートとの関係が途切れず，関係が継続していることは，円滑に復学するために特に重要である．絵本では復学する子どもに安心感をいだかせるような場面設定としていたため，入院中は「受け入れてくれるか不安」だった主人公が復学時には「安心」に至ることで,温かく受け入れることの大切さを学んでいたと考える.

### 2． クラスメートとしてどのように対応するか

Aクラスでは【退院のお祝いの気持ちを伝える】【クラスで協力して助け合う】やBクラスで【頑張ったことを褒めたい】【同じ人間だからからかったり，差別をしない】など，復学者に敬意を払うと共に，クラスで協力して見守りながら支援したい気持ち，からかわないことの大切さを感じ取ることができていた．対象の５年生は，自己中心性から脱却し，他者への共感性の高まりと思いやり行動が増加する発達段階であることから，治療を終え，復学した子どもの気持ちを察知し，自分がどのように対応するについて大方の児童が思いやりや親切な気持ちを抱くことができており，絵本のねらいが伝わったと考える．

小児がんのような重篤な病気の場合，病気の理解がないまま，復学するクラスメートを受け入れることは難しい．クラスメートへの説明に関して小学生を対象とした調査では，仮想場面とは言え，なんらかの病気や復学する当事者の状況を事前に説明しておいた方が，情報がない場合より，理解が深まり支援しようとする思いやりが醸成されることが明らかになっており（大見，2020），この絵本は復学する児童に関する周囲の児童への説明のための補助教材としても活用可能と考える．

### 3． 主人公がどんな子どもか，そして自分はどうなりたいか

主人公を【病気や治療から逃げないで頑張る強い子だ】等主人公の前向きで頑張る姿に敬意を払う気持ちとどんな子どもでも不安になる側面があるという人の弱さについても感じ取っていた．それを受けて自分はどうなりたいかについては，【諦めない子になりたい】【やさしい子になりたい】と前向きな姿勢が記載されており，絵本の主人公に共感し，触発されることによって自分も主人公のように頑張りたいという自分の生き方を考える機会になっていた．

### 4． 全体を通しての学びと道徳の授業としての成果

まとめの感想では白血病という病気の理解と入院生活や闘病そのものの現実的な大変さを理解し，主人公の頑張りやそれを支える仲間の大切さも同時に学んでいた（Aクラス）．また笑顔で接すること，手紙を書くこと，安心感を持たせること，仲間で支えあうことや我慢すること・諦めないことの重要性や命の大切さ等を学んでいた（Bクラス）．

児童は白血病という病気のこと，闘病する人の立場にたって気持ちを想像したことで，周囲の人間として自分ができることは何かを考えることができており，絵本の狙いは達成できたと考える．さらに今後どんな人間になりたいか，将来の自分の生き方についても考えることができており，道徳科の「自己の生き方について考えを深める」という狙いも達成できたと考える．道徳教育の効果は３段階，つまり「第１段階の頭で理解する」「第２段階の納得する」「第３段階実際に行動に移す」で論じられるべき（田中,2017）という考え方でいけば，今回道徳科の授業で児童が感じたことを頭で整理し，自分の考えとして発表し，記述することは，第２段階まで到達したのではないかと考える．今後，日常生活で絵本に類似した様々な場面に遭遇した折に触れ，児童に今回の学習した視点の想起を促し，さらに行動化に導く支援をすることで第３段階に移行できると考える．コールバーグの道徳の発達段階で考えるならば（山内，2000），水準Ⅱの第３段階は対人的同調，「良い子」への志向，善意があるかどうかが重要であり，さらに第４段階になると「法と秩序」の維持への志向，社会的秩序を維持しようとすることが重要となる．闘病というつらい体験をした子どもに対して「喜ばせたり，助けたりする」第３段階が該当し，さらに【いじめのない世界を作る必要がある】という記述にも表現されるように「いじめはいけないこと」の社会的認識に至っていると考え，まさに対象である小学５年生はこの段階に至っていると判断できる．以上のことから，この絵本は「命の大切さ」を伝えて，道徳の発達を促進する最適な教材の一つであると考える．

## Ⅶ. 研究の限界と今後の課題

対象が１校２クラス５年生のみであるため，一般化はできず，さらに他学年も含め対象を拡大し，検証していく必要がある．今回は授業案の差異による検討はしなかったが，さらに効果を高める授業案の工夫が求められる．

## Ⅷ. 結論

この授業の道徳教育のねらいは達成されたと考えられ，活用した絵本は道徳授業の教材として活用可能であることが示唆された．今後多くの学校で活用されることが期待される．

### 謝辞

本研究にあたり，多大なご協力を頂きました学校の先生方，児童の皆さまに感謝いたします．本研究の一部は，第33回愛知県病弱療育研究会で発表した．また，科学研究助成（2019年度，基盤B;15H05090：代表者）を受け発表した．開示すべき利益相反はない．

### 文献

林　和彦.（2017）．＜健康教育＞学校におけるがん教育の意義とその進め方,チャイルドヘルス，20（9），37-41.

文部科学省（2010）．小学校学習指導要領解説,道徳編, 東京；株式会社東洋館出版社.

文部科学省（2016）．がん教育推進のための教材（令和３年３月一部改正,
https://www.mext.go.jp/content/20210310-mxt_kenshoku-100000615_1.pdf
（2021．9.25　閲覧）

文部科学省（2017）．小学校学習指導要領（平成29年度告示開設）-特別の教科　道徳編），福岡;廣済堂あかつき株式会社，1-57.

文部科学省（2021）令和２年度がん教育研修会・シンポジウム,（2021.127動画配信資料）.

大見サキエ.（2010）．がんの子どもが復学する時のクラスメートへの説明―小学校における場面想定法を用いた検討―，小児がん看護．5，35-42.

大見サキエ.（2016）．小児看護学領域における問題提起－病気療養児に対する教育支援の取り組みの現状と課題－，法政論叢，第52巻，第２号，221-229.

大見サキエ，安田和夫，他.（2016）．小児がん患児の復学支援ツールの開発―小学生に対する試作絵本の読み聞かせ効果と活用法の検討－，岐阜聖徳学園大学看護学研究誌，創刊号，3-15.

大見サキエ，森口清美，他（2016）．おかえり！めいちゃん－白血病とたたかった子どもが学校にもどるまで－，岡山;ふくろう出版,改訂版第１刷．1-32.

阪本真由美，砂川友美,（2003）．長期入院後の復学に伴う病児のストレス・対処行動とその影響,小児看護,26(8),1006-1013.

田中潤一編.（2017）.イチからはじめる道徳教育，京都；ナカニシヤ出版.

山内光哉.（2000）.発達心理学（上），京都；ナカニシヤ出版.137-147.

# Examination of the possibility of using picture books with cancer children as the main characters for moral education

Sakie OMI[1)], Kiyomi Moriguchi, [2)], Megumi Hatanaka[3)], Ayumi Takagi[4)],
Yoko KawaI[5)], Kyoko Miyagishima[6)], Kazuo Yasuda[7)] , Kentaro Hiraga[8)],
Yumiko Takahashi[9)], Keizo Horibe[3)]

*1) Sugiyama Jogakuen University, School of Nursing, 2) Shujitsu University, Faculty of Human Studies*
*3)National Hospital Organization Nagoya Medical Center, 4)Gifu Shotoku Gakuen University, Faculty of Nursing*
*5)Nihon Fukushi University, Faculty of Nursing, 6)Hamamatsu University School of Medicine, Faculty of Nursing*
*7)Gifu Shotoku Gakuen University, Faculty of Education, 8)Osaka Kyoiku University, Faculty of Education*
*9)Formerly Gifu Shotoku Gakuen University, Faculty of Nursing*

## Abstract

The purpose of this study is to examine whether picture books with cancer children as the main characters can be used for moral education.

As for the method, the lesson was conducted using a picture book in the moral subject of the fifth grade of elementary school. The aim of the class was to foster an attitude of compassion from the standpoint of the other party. The analysis was conducted qualitatively and inductively with 59 copies of the impressions written by the children after class.

As a result, as the main character, the child is surprised, lonely, sad, anxious when he is hospitalized and/or ill, wants to leave the hospital early, various anxieties about returning to school, and happy that his classmates accept him when he returns to school. And so on. From these, it was found that the child could imagine the feelings of the hero. Also, when he returned to school, he had respect for the hero's fighting illness, and in the class he wanted to watch over and support the hero with compassion. He also learned about the importance of life and how to live in the future.

From this result, this lesson is in line with the aim of the moral subject. It was suggested that picture books could be used as moral teaching materials.

**Keywords: Childhood Cancer, Picture Books, Moral Education, Elementary School Students, Bullying Prevention**